

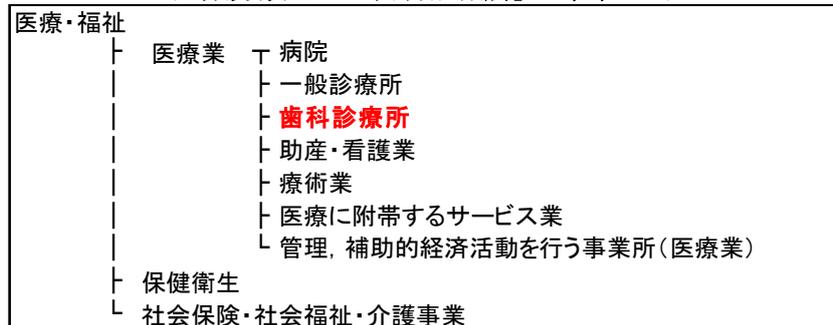
40.【歯科診療所数】 歯の治療は大都市では便利だが、一日がかりの町村も

[前記事 \(No.39\)](#) で「人口あたり歯科医師数」を採り上げ、そこでは、大規模な大学病院など歯科医療機関が集積する大都市部が上位に多く、実際、東京都の歯科医師では、病院勤務の割合が全国平均より高いことを示しました。私たちが日常生活の中で「歯が痛い」となった際には、いきなり大学病院に行くというケースは少なく、まず駆け込むのは町の歯医者さん、つまり「歯科診療所」ということが多いでしょう。そこで今回は、この「病院」ではない「歯科診療所」の数を採り上げます。

前回の歯科医師数のデータは、厚生労働省所管の「医師・歯科医師・薬剤師統計」から取りましたが、今回の「歯科診療所数」は総務省所管の「経済センサス活動調査」（最新は令和3年）により把握します。経済センサスは、従来の事業所・企業統計調査や商業統計調査などを統合する形で平成21年の基礎調査から始まったもので、活動調査では事業所の数や従業者数が、産業分類などの別に示されています。

日本標準産業分類では、大分類の「医療・福祉」の中に「医療業」（中分類）、さらにその中の小分類として「病院」や「一般診療所」などと並んで「歯科診療所」があります。ですから、この事業所数がほぼ町の歯医者さん（歯科医院）の数と考えて良いこととなります（もちろん規模の大小等はさまざまでしょう）。

産業分類上の「歯科診療所」の位置づけ



前記事で、一説に「歯科診療所の数はコンビニより多い」と言われる、と書きましたが、令和3年経済センサス活動調査による全国の歯科診療所数は 64,655 で、一方、日本フランチャイズチェーン協会による今年（令和6年）2月のコンビニエンスストアの全国総店舗数は 55,657 店とされており、確かに歯科診療所の方が多いです。それだけ身近な存在であるわけですが、コンビニと同様、特に都市部では競争も激しく、個人経営も多いでしょうから、「腕」の良さだけでなく「経営」手腕も求められることでしょう。

☞ 歯科診療所の数では東京都が突出だが、都道府県別人口あたりでは比較的公平な分布か

さて、まず、歯科診療所の数そのものを都道府県別に比べてみましょう。

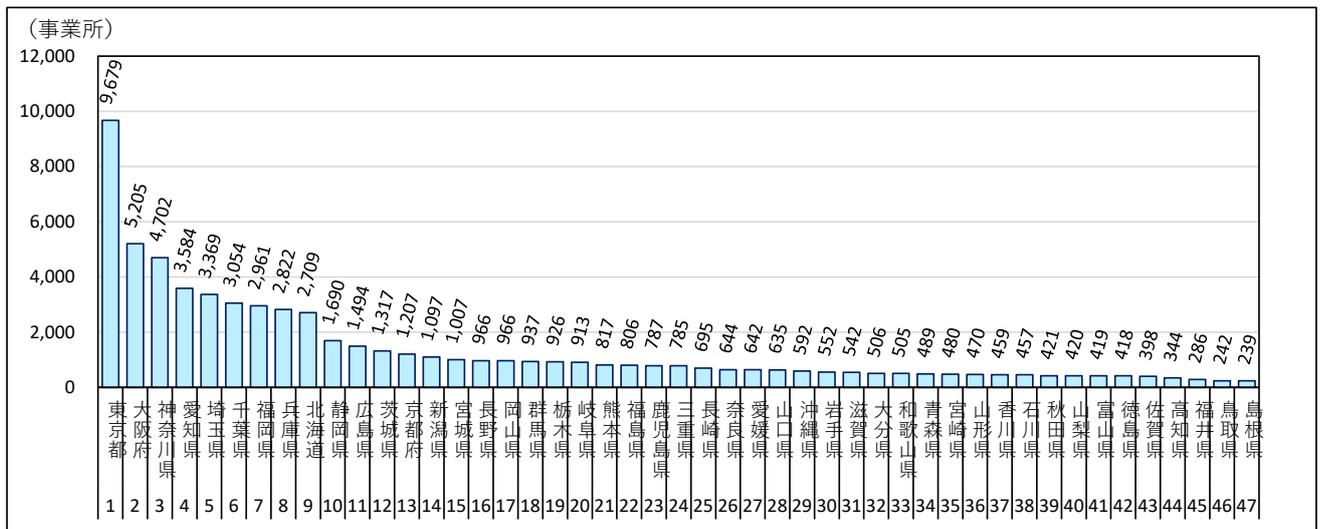
次ページ上のグラフで、1位は群を抜いて東京都であり、その数は9,679。全国の約15%が東京都にあるということになります。歯科診療は広義のサービス業のひとつですから、人口の分布に比例して立地するとも考えられますが、それにしても東京都の分布割合は突出しています。これはあくまで「歯科診療所」の数であり、病院の歯科は含まれませんが、やはり東京は、夜間人口だけでなく昼間人口の集積が著しいので、歯科診療所もそれに見合った集積、ということでしょう。通勤を伴う就業

者は、私を含め自宅近くでなく勤務先近くの歯科へ通うというケースも多いでしょうから。

なお、東京都以外では、概ね人口に準じた順位になっているようです。最も少ない島根県は239で、これを含め人口密度の低い地方では歯科医院へのアクセスも時間や距離を要し、通うのも大変な場合が多い（場合によっては一日がかり？）のではないかと思います。

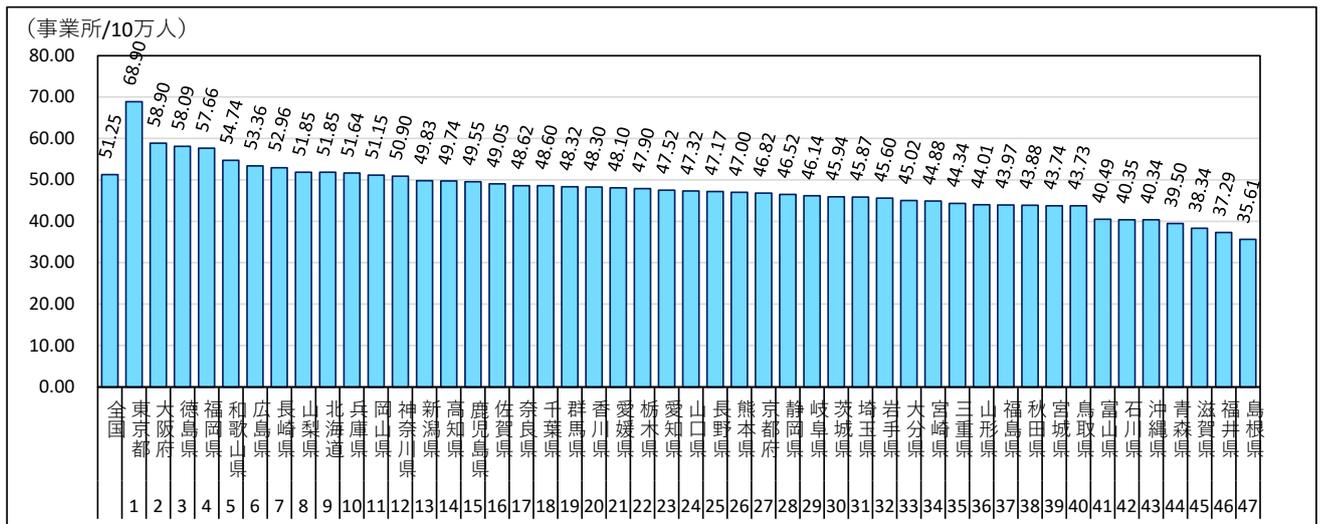
次に、人口10万人あたりの歯科診療所数（人口は令和2年国勢調査人口を使用）で比較してみると以下の下側の図のようになり、実数ほどの極端な差はなく、1位で突出している東京都（68.9事業所/10万人）が最下位の島根県（35.6事業所/10万人）の2倍弱というところです。全国平均は51.2事業所/10万人で、いずれの都道府県も全国平均からプラスマイナス2割程度の幅に収まっていると見られます。人口あたりでは比較的公平な分布ですが、上述のように人口密度の低い地方ではその身近さに難もありそうです。

都道府県別の歯科診療所数



資料：令和3年経済センサス活動調査

都道府県別の人口10万人あたり歯科診療所数



資料：令和3年経済センサス活動調査（人口は令和2年国勢調査）

大都市中心部での集積の一方、1～2つの歯科診療所が命綱という小規模町村も多数

次に、市区町村別の歯科診療所の数を、実数及び人口10万人あたりで比較し、それぞれ上位50までを次の表に示します。

市区町村別の歯科診療所数
(1～50位)

順位	(県)	市区町村名	歯科診療所数
1	東京	世田谷区	669
2	東京	港区	497
3	東京	大田区	483
4	東京	練馬区	422
5	東京	杉並区	393
6	東京	中央区	389
7	東京	新宿区	380
8	東京	渋谷区	378
9	鹿児島	鹿児島市	364
10	東京	足立区	353
11	東京	江戸川区	329
12	東京	板橋区	319
13	東京	品川区	307
14	千葉	船橋市	296
15	栃木	宇都宮市	289
16	東京	豊島区	286
17	東京	千代田区	285
18	大阪	東大阪市	279
19	北海道	札幌市中央区	277
20	東京	江東区	270
21	神奈川	藤沢市	267
22	東京	八王子市	266
23	兵庫	西宮市	266
24	長崎	長崎市	264
25	兵庫	姫路市	262
26	埼玉	川口市	257
27	東京	葛飾区	257
28	東京	目黒区	253
29	千葉	松戸市	249
30	愛媛	松山市	243
31	千葉	市川市	242
32	岐阜	岐阜市	238
33	大阪	大阪市中央区	237
34	大阪	豊中市	236
35	東京	文京区	233
36	香川	高松市	231
37	岡山	岡山市北区	229
38	東京	中野区	227
39	兵庫	尼崎市	227
40	広島	福山市	227
41	宮城	仙台市青葉区	226
42	東京	台東区	220
43	大分	大分市	220
44	東京	北区	218
45	宮崎	宮崎市	218
46	岡山	倉敷市	216
47	東京	町田市	214
48	和歌山	和歌山市	212
49	石川	金沢市	211
50	福岡	福岡市中央区	211

市区町村別の人口10万人あたり歯科診療所数
(1～50位)

順位	(県)	市区町村名	人口10万人あたり歯科診療所数	【参考】 歯科診療所数
1	東京	千代田区	427.41	285
2	山梨	丹波山村	377.36	2
3	島根	知夫村	315.46	2
4	沖縄	渡名喜村	289.02	1
5	東京	中央区	229.93	389
6	大阪	大阪市中央区	228.49	237
7	東京	港区	190.80	497
8	長野	売木村	182.48	1
9	群馬	上野村	177.30	2
10	沖縄	北大東村	169.49	1
11	奈良	黒滝村	160.51	1
12	東京	渋谷区	154.99	378
13	北海道	占冠村	153.14	2
14	愛知	名古屋市中区	151.45	141
15	大阪	大阪市北区	147.80	206
16	沖縄	渡嘉敷村	139.28	1
17	奈良	下北山村	132.80	1
18	岡山	新庄村	123.00	1
19	北海道	神恵内村	114.94	1
20	広島	広島市中区	114.93	164
21	青森	佐井村	111.86	2
22	兵庫	神戸市中央区	111.85	165
23	北海道	札幌市中央区	111.39	277
24	東京	新宿区	108.76	380
25	福岡	東峰村	105.32	2
26	東京	台東区	104.05	220
27	福岡	福岡市中央区	102.68	211
28	神奈川	横浜市中区	101.73	154
29	宮崎	西米良村	100.00	1
30	北海道	利尻町	99.80	2
31	高知	奈半利町	98.88	3
32	愛知	豊根村	98.33	1
33	東京	文京区	97.06	233
34	東京	武蔵野市	96.57	145
35	和歌山	新宮市	95.69	26
36	北海道	西興部村	94.97	1
37	東京	豊島区	94.83	286
38	沖縄	多良間村	94.52	1
39	京都	京都市中京区	93.22	103
40	北海道	喜茂別町	92.76	2
41	北海道	初山別村	92.59	1
42	福岡	北九州市小倉北区	90.51	166
43	愛知	設楽町	90.15	4
44	大阪	大阪市天王寺区	88.86	73
45	沖縄	伊平屋村	88.81	1
46	島根	海士町	88.22	2
47	東京	国立市	88.16	68
48	東京	目黒区	87.82	253
49	京都	笠置町	87.41	1
50	広島	安芸太田町	87.11	5

資料：令和3年経済センサス活動調査（人口は令和2年国勢調査）

政令指定都市も行政区別で、市区町村数は1,896ですが、東日本大震災による原子力発電所事故の影響が残る福島県双葉郡8町村と飯館村は対象外とし、1,887市区町村での比較としています。

実数の上位には、1位の世田谷区をはじめ東京特別区や地方中核・中心都市の名が多く見られ、やはり、人口（夜間・昼間）の集積に応じた立地分布という状況が読み取れます。

ただし、これが人口10万人あたりではだいたい様相が変わります。実数で669というダントツの数だった世田谷区は、人口自体が94万人以上と非常に多いため、人口10万人あたりでは99位となり、代わって人口10万人あたりでの1位は千代田区となります。千代田区は従業者が多く集まり、この昼間人口を市場とした歯科診療所の集積立地ということでしょうが、ここでの分母が夜間人口であるため、夜間人口67,000人弱という少なさの千代田区が一躍首位に躍り出たわけです。

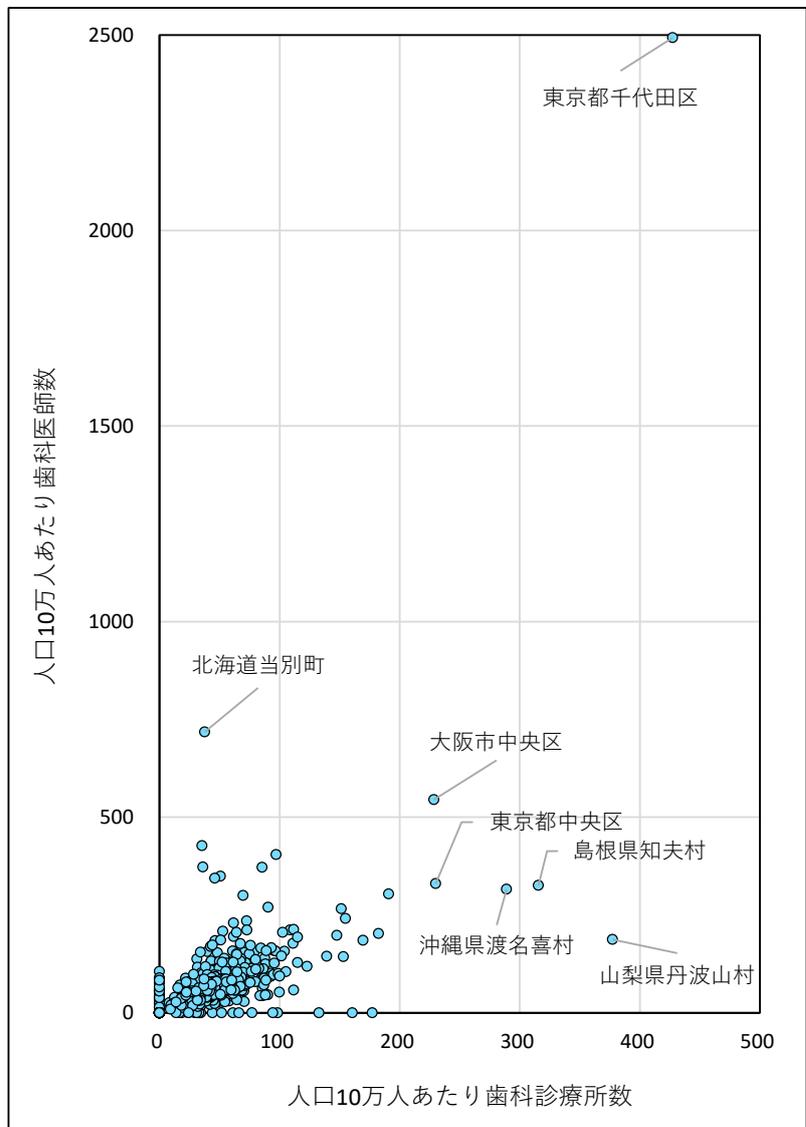
このほか50位以内には東京特別区が8区もあり、大阪市も北区、中央区、天王寺区が含まれるなど、大都市の都心部が歯科診療所のアクセス性抜群ということになりますが、一方で、歯科診療所数が1や2という地方の町村が、分母の人口の少なさゆえに人口あたりでは上位に含まれてくるという状況も注目されます。こういうところでは、町村に1つや2つの歯科診療所が貴重で命綱のような存在であり、経営以前の使命感のような意志で運営されているところも多いかと思われま

す。そして、対象市区町村の中で77町村は歯科診療所数が0です。人口が非常に少ない中山間の町村が多いですが、離島も多く含まれます。歯一本の治療にも大変な苦労を要する町村もあるということを知っておいてほしいと思います。

なお、ここでの市区町村別の人口10万人あたり歯科診療所数と、前回記事の人口10万人あたり歯科医師数の相関をとったものを右図に示します。

必ずしもきれいな相関というわけではありませんが、ひとつ注目されるのが、歯科診療所数は6ながら人口10万人あたり歯科医師数が2位（歯科医師数110人）という北海道当別町です。札幌の北方にある人口15,000人余の町ですが、ここには北海道医療大学があり、大学病院にも歯科があるほか、直

人口10万人あたり歯科診療所数と
人口10万人あたり歯科医師数の相関図

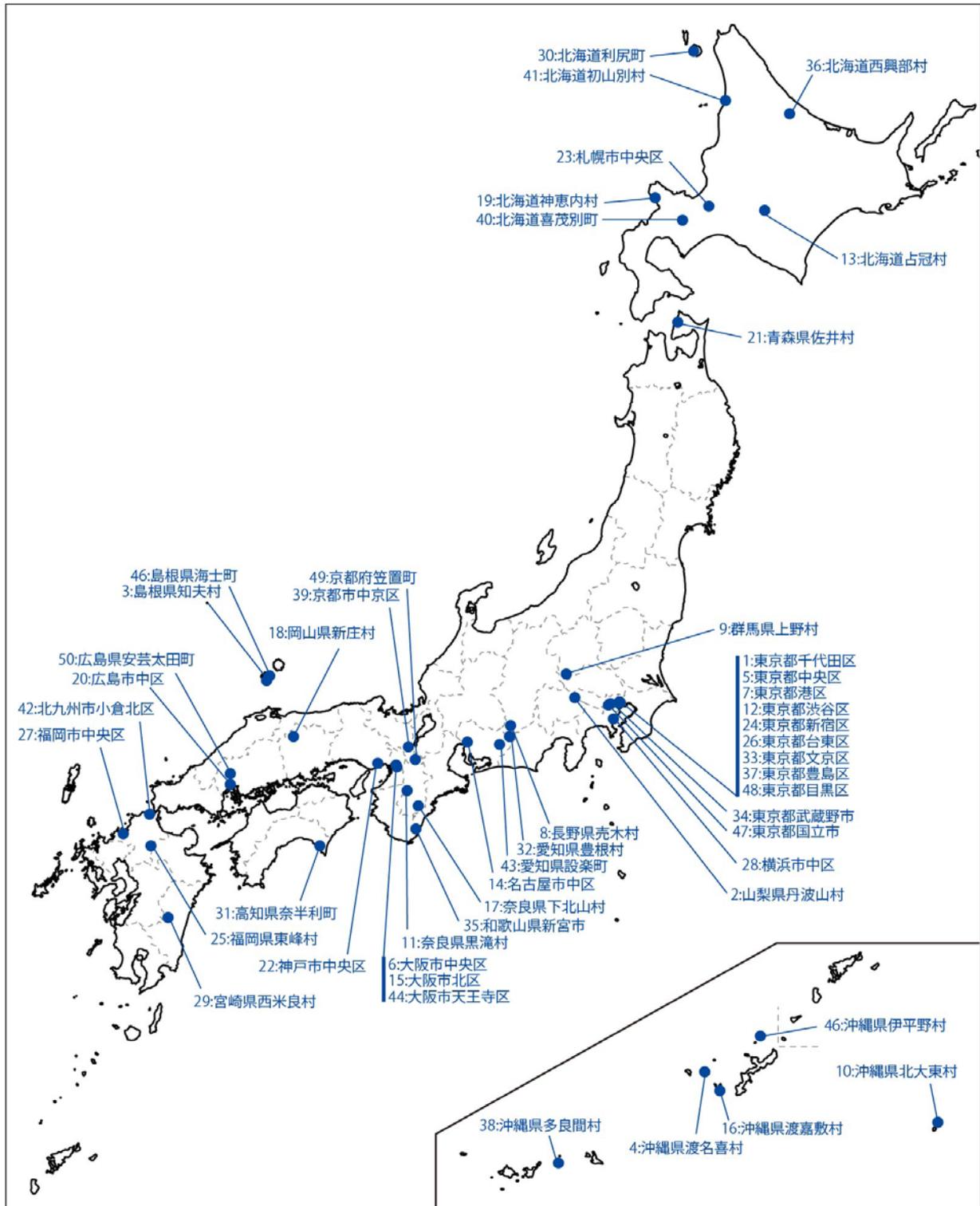


資料：人口10万人あたり歯科医師数は、医師・歯科医師・薬剤師統計（人口は令和5年住民基本台帳人口）
人口10万人あたり歯科診療所数は、令和3年経済センサス活動調査（人口は令和2年国勢調査）

属の歯科クリニックもあって、そこでの歯科医師の多さがここに表れているのです。

ただ、北海道医療大学は札幌南方の北広島市、北海道ボールパークFビレッジ内に移転が決定しており、歯科クリニックも令和10年3月に廃止されます。当別町にとっては医療面だけではなく大打撃の事態で、地方の町村では少ない医療や歯科診療施設の存廃が地域の命運を左右するという典型例ともいえ、今後の推移にも注目したいところです。

「人口10万人あたり歯科診療所数」上位の市区町村マップ（1～50位）



資料：令和3年経済センサス活動調査（人口は令和2年国勢調査）